

一日中小企業庁 in わかやま

- | | |
|---------------------|---------|
| ・農業総合研究所 社長 | 及川 智正 氏 |
| ・アイエムティー 社長 | 森川 要 氏 |
| ・ふみこ農園 社長 | 成戸 文子 氏 |
| ・風神莫大小 社長 | 風神 昌哉 氏 |
| ・インテリックス 社長 | 木村 明人 氏 |
| コーディネーター | |
| 和歌山県よろず支援拠点コーディネーター | 井上 禎 氏 |

中小企業フォーラム



和歌山県と中小企業庁、近畿経済産業局主催の「一日中小企業庁 in わかやま」が10月31日、和歌山市のAPパローム紀の国で開かれた。中小企業庁が施策を紹介したほか、モノづくり日本会議のフォーラムでは地元中小企業を中心に意見交換が行われた。また中小企業基盤整備機構近畿本部主催（和歌山県・近畿経済産業局・モノづくり日本会議共催）の中小機構フォーラムでは数多くの中小企業を取材する中沢孝夫福山大学経済学部教授が講演するなど、3000人の参加者がさまざまなプログラムに参加した。

井上 皆さまが支援策をどう成果に結びつけたかなどを伺いたい。

木村 当社はオーダーカーテンを中心とした窓装飾に絞った製造直販型の企業だ。脱サラしてオーダーカーテンの縫製を5、6人で始めた。後に新工場を建てる資金繰りを金融機関に相談し、和歌山市の企業立地課を訪問した。親切に説明してもらい企業立地の奨励金をいただいた。県の企業ソムリエの認定企業にもなった。結果を出す必要がある。そこで、当社にとって適正な制度が見極めながら使っている。

風神 当社が所属する和歌山ニット工業組合で3年前からJAPANブランド事業で支援いただいていた。和歌山の梅のスイーツ化を思い立った折、商工会議所から県の元氣ファンドを活用したらどうかとアドバイスを受けた。その後もいくつかの制度を活用する際には、社

北川 慎介 氏

北川 慎介 氏は「地域の活性化と小規模企業の支援をしっかりと」として上場企業に集まっている和歌山県に、中小企業庁がどう支援を進めている。またモノづくり、サービス業をはじめとする企業活動のイノベーションにも取り組む。今日は多くの企業が集まっていたので、和歌山の現状や、中小企業庁がどう支援を進めているかを、といったお話を伺いたい」とあいさつした。

具体的施策については、小林利典中小企業庁次長が説明した。「和歌山県は機械部品の製造からフルーツを生かしたさまざまな商品、多くの観光資源と幅広い業種の中小企業群があるのが特徴。ローカルアベノミクスという言葉がある



中小企業庁長官 北川 慎介 氏

が、地域の中小企業の活性化が日本経済を支える正念場に来ている」として上場で、まず小規模事業者の支援について挙げた。今年成立した小規模企業振興基本法で、地域密着型の事業を行う小規模事業者の支援を拡充している。商工会、商工会議所の事業への支援を、公需を積極的に活用していくほか、創業補助金なども使っている。

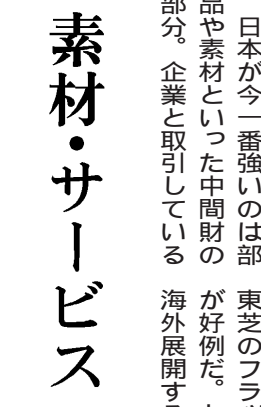
仁坂知事が挙げた原材料・エネルギーのコストアップに伴う価格転嫁についても呼びかけた。地域の中小企業の活性化

中小機構フォーラム

伸びる企業の事例に学ぶ 成長への転換点

よく中小企業問題というが、規模だけが原因なのか、景気や流通、業界そのものの変化といった外的状況が大きいのかをきちんと考えなければならぬ。地方の景気回復の立ち上がりが遅い、ともよく言われるが、実は中小企業が密集しているところは回復力がある。

全国の中小企業に話を伺うが、中小企業の経営資源は基本的に社長であり、二代目さん、彼らが中心となり、じつとしていないのであちこち出かけている。その価格以外にも付加価値のある仕事を積極的に考える。ただ、製造業とサービス業では付加価値のつけ方が異なる。モノづくりは在庫が利くし、遠くまでデリバ



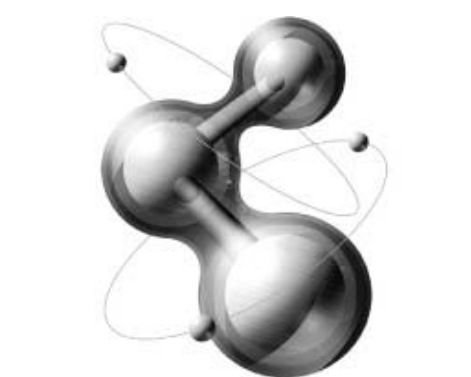
特別講演

福山大学 経済学部 教授 中沢 孝夫 氏

リである。一方でサービスは、発生したところでサービスする以外にない。ただ、商品企画してから実際に製造、販売しアフターサービスするまでの流れ全体をモノづくりと見ると、製造業とサービス業を分けるのは意味がない、という意見もある。

日本が今一番強いのは部品や素材といった中間財の部分。企業と取引している

小規模事業者支援を拡充



モノづくり日本会議

—モノづくり推進会議 NextStage—

和歌山県知事 仁坂 吉伸 氏



和歌山はモノづくりを中心とした中小企業の活動の盛んなところだ。和歌山の原動力策を講じていて、伸びようとする企業が増えている。頑張っている企業に今日は多く集まっていた。現在の政権では経済政策が大きく

中小向け振興施策一覽作成

変わりの円安も進んでいる。しかし円安による輸入原料の高はなかなか価格転嫁が進まず、下請けや材料提供が多い地方の活性化につなごうという面もある。これはぜひ政府も価格転嫁が進むようテコ入れをしていただきた。県でも施策を進めている。が、国が直接進める各種施策についてちゃんと情報を取り、企業の皆さまにアドバイスする。中小企業向けに振興施策一覽を作り、県だけでなく国や日本貿易振興機構（JETRO）、金融機関の情報も伝わるようにまとめている。まだまだ努力しなければならぬが、和歌山の全員で前向きに取り組んでいきたい。

起業時にも制度活用

井上 起業を考える人にアドバイスは、成戸 資料作成など、未熟でもなんとかできた。起業の機会があったらチャレンジしてみるべきではないか。

風神 新しいマーケットに出るときは勇気と努力を必要とするが、支援策を活用して新しい体験をしてもらいたい。

木村 制度を活用するにはフェース・ツー・フェースで相談するのが良いが、敷居が高いかもしれない。過去にその制度を使った方に相談してみるのも一つの方法だ。

井上 支援の活用は目的でなく手段。制度を使うことや直売所事業などを展開しているが、最初に支援制度を活用していなければ今は

支援事業 工場建設・ブランド強化に生かす

なかつた。

素材・サービス 新領域に挑戦を

B2Bの加工業は競争力を持っては十分国内でやっていける。パソコンでも台数の少ない機種分野はリードタイム、賃金格差、輸送費などを考えると日本国内に回帰している。携帯電話も主要部品が日本製で代替がきかないものが多いし、半導体にしても日本は負けているといわれるが材料そのものは日本が圧倒的に強い。

製造装置を自分たちで開発しているところも強い。東芝のフラッシュメモリーが好例だ。トヨタにしても海外展開する際に、国内各



モノづくり日本会議

—モノづくり推進会議 NextStage—

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどのイベントや交流会などの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。

少子高齢化、環境対応、資源・エネルギー問題など様々な課題を乗り越え、「超」モノづくりの推進をテーマに、事業を進めております。

先進的な技術やノウハウを有する会員企業をはじめ、多彩な連携機関のご協力をいただき、モノづくり産業のさらなる発展を目指して事業を展開し、モノづくり産業の競争力強化につながるよう、地域間、企業間連携をおこない、ビジネスマッチングなども図っていきます。

モノづくり日本会議の事業

「グローバル競争力強化関連事業」

- モノづくり力徹底強化検討会
- 人材育成関連事業
- 長寿企業イノベーション勉強会
- 価値創造型サプライチェーン検討会

「新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業」

- ネイチャー・テクノロジー研究会
- 新産業創出検討会
- ◇新産業技術促進検討会
- ◇農商工連携勉強会
- ロボット研究会

その他の事業コンテンツ

- 交流・マッチング事業
- 顕彰事業
- モノづくり部品大賞
- モノづくり推進シンポジウム
- 特別講演会
- 地区別研究会
- ◇中部地区研究会

各事業の詳細は、モノづくり日本会議ホームページ（www.cho-monodzukuri.jp）をご覧ください。